新京日日新聞
夕刊
十一月廿七日（月）

外務と軍部の全体委員會を設置

外相日米關係の調整に努力

〔東京二十六日發國通〕廣田外相は一九三五年の國際危機を目前に控へ之が突破の爲め先づ差當り武裝國との關係調整をはかり特に先づ米國との間の改訂問題を控へてゐるため具體的にロンドン海軍條約ソ聯邦に對するが如き方針と異り有效適切なる具體策を此際速急に決定すべき要ありとし先般の五相會議に於て日米不戰の大原則を確立したが實現の方式研究の技術的問題は外務、陸海軍、大藏省の關係部局をして行はしめることゝしてゐるが今回愈よその準備を開始することゝなつた、即ち

一、廣田外相は外部的工作としては去る十月十二日駐日米國大使館にグルー大使を訪問、懇談したが更に十一月二十七日には外相官邸に同大使を招待して種々懇談を重ねる筈である

一、又十二月中旬歸國する出淵駐米大使の後任に就ては廣く朝野に一流の人物を求め以て現下の行詰まれる日米關係打開に努力せしむべく各方面と折衝懇談中である

一、細部工作としては既に海軍側に於て一九三五年の軍縮對策委員會が設置され外務省に軍部と歐米局のみの連絡委員會を設置したが近く更に軍縮對策のため歐米局のみではなく條約局、亞細亞局をも交へた委員會を設置する筈である

一、右外務、軍部の全體委員會に於ては軍縮對策として單に日米兩軍の比率等の技術的範圍に局限せず太平洋諸島防備制限協定の主旨を擴大せしめるために一切の政治的方策についても考究審議されるものと期待されてゐる

出淵大使 歸國の途に

〔ワシントン二十五日發國通〕出淵大使は夫人、令孃、令息同伴二十五日日本官民多數の見送りを受けてワシントンを出發歸國の途についた、十一月三十日桑港より淺間丸に乘船の筈である

考査部設置 樞府委員會は廿七日 結局希望附で通過か

〔東京廿六日發國通〕外務省考査部設置案につき廣田外相は就任以來種々考究の結果原案を修正し外務省の一局とすることに方針を決し審査委員長金子堅太郎子とも會見諒解を求めたので右案の樞密院審査委員會は二十七日午後一時より久し振りで樞府事務所に開會、先づ廣田外相より該案の理由及び之に對する方針を述べ各顧問官の質問に移る筈であるが樞府側の論點は

一、非常時局に鑑み寧ろ往年の外交調査會の如き權威ある機關の設置を要望する主張も依然一部に行はれてゐるであらう

一、新設局の運用

一、將來の外交に關する根本方針

一、外務省人事の刷新等豫想されるが結局既に十二萬圓の豫算が議會の協賛を經て居り一局の新設はなきに勝ると言ふ見地から委員會は之が運用に關し希望を附し承認することゝならう

注目されるリ、ム兩巨頭の會談

〔ローマ二十五日發國通〕リトヴィノフ氏はムツソリーニ首相の『招請』を受諾し米國よりの歸途十二月二日ローマに立寄りイタリー、ソ聯邦兩國間の通商關係促進其他國際情勢一般につき重要協議を遂げることゝなつた、ムツソリーニ首相が米國よりの歸途特にリトヴィノフ委員長に對しローマ訪問を要請したのは佛國との親善關係促進、ポーランド其他との不可侵條約締結並に米國との國交確立によりソ聯邦が再び國際政局に於ける重大な存在となつた端的な現れであるが既に去る九月不可侵條約を締結した伊太利及びソ聯の兩巨頭が重ねて會談を遂げることはドイツ政府の聯盟脱退による歐洲政局の險惡化、ヒツトラー政權の樹立以後に於けるソ獨兩國間の險惡化等に徴し國際政局上に重大意義を持つものとして注目されてゐる、更にムツソリーニ首相リトヴィノフ委員長兩巨頭の『會見』では北鐵讓渡交渉の行詰り、怪文書事件等で尖鋭化した日ソ兩國關係の局面打開策も審議される見込だと言はれてゐる

輸出ビル買入中止に伴ふ 對アルゼンチン貿易の打開策 商工省で協議決定

〔東京二十六日發國通〕正金の輸出ビル買入れ中止でアルゼンチン貿易停頓し、中小貿易業者は困憊してゐる、商工省の對外貿易振興會は小田原評定で協議の結果左の如く獨自の案で進むことゝなつた

一、個人單位となつてゐる輸出、輸入ビル決濟を國と國との決濟に改める

一、輸入需要に對する輸出力の割合は他國に比し苛酷故緩和されたいとの請願を外務省を通じアルゼンチン山崎公使に斡旋方依賴す

營口商業銀行 十二月一日より開業

營口商業銀行の設立準備は圓滑に進捗し、豫定通り十二月一日より開業の豫定であるが曩に廢止と決定した過爐銀整理額は二千百九十萬圓、回收公定率は國幣一圓に付過爐銀四テールと決定したが、財政部當局に於ては積極的に商銀を援助し梗塞せる營口金融界の打開を行ふ事となつた

日滿貿易促進を圖る爲 斡旋機關の設立計畫さる

〔東京廿六日發國通〕滿洲國に最近通商貿易斡旋機關の設立が計畫されて居る、即ち日滿商取引に際し、これが圓滑を圖る爲め滿洲輸入公會を設置し日本品の滿洲輸入を促進せんとするもので資金貸付の際は滿洲國實業部と滿洲中銀の助力を仰ぐ筈で差當り奉天に本部を置き將來は滿洲の各地に分會を設ける

東株當期配當率 八分乃至八分五厘か

〔東京二十六日發國通〕東株理事長滿氏は二十五日商工省に藤田取引課長を訪問して當期配當を内示したい配當率は嚴秘に附されてゐるが八分乃至八分五厘見當と觀らる

滿洲の氣象施設に就て（三）

中央觀象臺長 後藤一郎

第七は「土木交通治水に必要なる氣象」土木事業交通機關等は氣象狀態が明かでなければ支障なく實施經營する事が出來ない、殊に雨量と河川の增水との關係を調査するは治水上最も必要であります

第八は「工業と氣象」各種の工業が合理化さるればされる程、氣象を度外視する事が出來ませぬ。例へば工場内の溫度とか濕度を適當に調節する事に依て能率を增進し製品の品位を向上せしめた例は澤山あるのであります。日本に於きましても製糸紡績工場等で氣象の施設を取り入れて効果を擧げた例も知て居ります。又滿洲の冬が寒ければ其の寒さを利用する低温工業の如きも正に計畫されて然るべきではありませんか

第九は「曆書の編製、報時及天象觀測」觀象報時は昔から王道政治の根幹をなして來まして、國曆頒布の重要なるは謂ふ迄も無い事であります又國内の時刻を統一する爲に正確な時刻を各電信局、停車場等に報ずる事も忽にする事が出來ませぬ其れが爲には種々の天体觀測が必要であるのみならず、殊に太陽面の活動即ち黑點及日射の消長は地球上の氣象變化に密接の關係がありますから各種の天象觀測を實施する必要があります

第十は「地震、地磁氣、空中電氣等地球物理學的觀測」滿洲には昔から地震は余り無い方でありますけれども此等の觀測事項は孰れも各文明國の協同的事業でありまして、單に國内的のみならず、國際的にも一通りの觀測を實施する必要があります

第十一は「觀象技術員の養成」觀象臺の主要事務は特殊の學藝技術を要しまして、從來滿洲國人であつて此技術を習得し經驗を有する人が殆ど無い樣な現狀では、今後此氣象事業の進展上一大支障を來す虞がありますから、大同三年度以降より廣く有爲の青年を募つて、日本へ留學させるとか又は觀象臺に於て養成するとかして若い技術者を年々仕立てゝ行きたいと思て居ります

最後に氣象事業組織の大要に就て述べますれば、中樞機關たる中央觀象臺を新京に置て全國の事業を統制せしめ、前に述べた業務を遂行し地方には樞要の地に其の規模の程度に應じて、地方觀象臺とか地方觀象所を設置しまして其の地方々々に關する業務を分擔せしむる仕組になつて居ります。而して此等地方觀象臺とか地方觀象所の數は、將來少くも五、六十個所位に增るなければならぬと思ふのであります。序に申しますれば、現在日本に於ける氣象機關の數は、氣象臺を始め地方測候所を引包めて總計百七八十個所に上り、千二三百名の專門技術者が此業務に從事して居るのであります

斯くして滿洲國の氣象機關は國内に既設の關東廳及滿鐵の觀測所と緊密なる聯繫を以て滿洲國内に一大氣象網を構成して、事業の目的達成に努むると同時に尙隣邦各國特に先進國たる日本の氣象機關とは手を携へ其の支援の元に東洋方面に於ける氣象事業の完成に躍進せむとするのであります。本年度即ち大同二年度は主として、事業の計畫準備をやると謂ふ建前から大して具体化する事業はありませぬ、單に中央觀象臺の施設の一部と地方觀象臺としては黑河と海拉爾との二個所に新設するに過ぎませぬ彼の地方は前にも申しました樣に從來氣象機關の設備なく而も東洋に於ける大氣活動の源泉である大陸高氣壓とか大陸颱風の發現する地方で最も重要な位置でありますから他の地方に卒先して計畫された譯である（終）

日滿悲曲 生命線を行く（上演上映）

國友雄吉
（荒川芳三郎畫）

（二十七）

親實の力

「僕が、お父さんの跡を繼ぐなんて、飛んでもないことだ。僕は、一家を經營して行く手腕も無く、資格も無い人間なんだ。その理由は、いくらもある。まづ第一、六年といふ長い間、家を外に飛び歩いて、兩親に、不孝の限りを盡した。そして、その罪を償なふだけの成功でもして、歸つて來れば兎に角、相變らず、こんな慘めな姿で歸つて來た。それに、僕はもう獨身ぢやない。しかも、その妻は、僕が自由に選んで、結婚した妻なんだ——」

伸一は、尙、言ひ續けやうとした。それを久彌が、遮つた。

「兄さん、過去のことは忘れませう。星澤さんに賴んで、滿洲まではる／＼兄さんを迎へに行つて貰つたお父さんの氣持が、兄さんにわからない筈はないでせう——兄さんの歸つた時、お父さんは、喜びの涙を一ぱい浮めて、兄さんの手を握つて、伸一か、と、たつた一言おつしやつた。あの短い一言のうちに、無量の思ひが、籠つてゐた。お父さんは。あの瞬間に兄さんの、過去の一切を許してしまつたんだ。多少の過ちが、兄さんにあつたとしても、それはもうスッカリ清算されてしまつたんだ。——だが、僕は僕で考へてゐるつもりだ。兄さんが、相續をしないといふ理由は、外にあるんだ。それは、お母さんに、遠慮をしてゐるからだ——」

「コレ、久彌！おまへは、飛んでもないことをいふ。そんなことがあつて、堪まるものか」

伸一は狼狽した。それが、久彌には、氣の毒に思はれるほどの、ひどい狼狽ぶりであつた。

久彌は、瞬も無く悲しかつた。

「僕にだけは、隱さないで、兄さんの氣持を打ち明けてくれませんか。兄さんの家出をした理由も、やはりお母さんへの氣兼からだと僕は思つてゐる。僕は、誰よりも兄さんの氣持を、いつも能く知つてゐるつもりだ。僕は、兄さんを尊敬してゐる。僕のこの氣持が、兄さんには、わからないのかなあ——」

「わかるとも。それは能くわかつてる。僕だつて、誰よりも、おまへが、いつち好きだと言へるだらう！」

熱意のほとばしる兄弟の瞳が、ピタリと溶け合ふやうに相觸れた。

「それだつたら、僕の賴みを肯いて、僕を救つてください。兄さんが、相續さへして下すつたら、僕は救はれるんだ——」

「でも——それは、困る——」と、伸一は、いかにも術なさうであつた。

しかし、何故困る——といふその理由を、はつきり言ふことのできない彼であつた。

「兄さんは、今度滿洲へ歸つたら、もう再び歸らないのぢやないかと、僕は、それが危ぶまれてならない。ねえ兄さん。それだつたら、僕、兄さんの代りに、嫂さんや坊やを迎へに行つて來ます。兄さんはもう、何處へも行かないでください！」

久彌の態度には、兄の心を、動かさねば止まないといつた熱心さが溢れてゐた。

ヒタ／＼と迫つて來るその親實の力に對して、伸一は、到底面を向けられないやうな氣がした。

彼は、それを避けるやうに、衝と立ち上つた。そして其處の窓際に差し寄つた。

窓の下には、やゝ色づいた紅葉の枝が覗かれた。九月らしい靜けさで、小鳥が囀つた。

久彌は、俯向いてゐた顔を、不圖擡げてみた。いまゝで、兄の姿に遮られてゐた佛壇が、眞正面に見られた。ヂッと此方を見つめてゐる父の顔が、その佛壇の奥に在るやうな氣がした。

そして父の聲が、何處からともなく、自分を戒め、勵まして居るやうに感じられた。

「さうだ。家の爲め、お父さんのため。僕は、たとへどんなことがあつても、兄さんを說き伏せるんだ！」

彼は、勇氣づけられた。

復活要求いよく政治的折衝に入る
廿九日か卅日の臨時閣議で
海軍、農林が難關

〔東京二十七日發國通〕難産の來年度豫算は目下の處何如なる解決を告げるや全く見透しさへつかず大藏當局と各省には依然難交渉が繼續されつつあるが、愈よ事務的折衝としては最終の段階に入つた爲め二十六日は日曜にも拘はらず各省は再復活案を中心に協議を續ける緊張ぶりであつたが、特に最難關視されつつある海軍、農林の兩省に於ては夫々大角海相、後藤農相を中心に官邸に省議を開き長時間の協議の後、果然財政當局の查定案を一蹴する頗る强硬なる再要求を決議し海軍、農林兩省は二十六日午後夫々大藏當局に强硬態度を披瀝し、其他各省共足並みを揃へて財政當局に肉迫し來つたが、之に對し大藏省側は午後五時から二時間に亘り高橋藏相私邸に藤井主計局長以下首腦部參集各省の再要求に對する事務當局の最後的査定情況を報告その中海軍、農林等の大物に就ては最早や事務的折衝により解決を期待し得ず、依つて藏相の裁斷に委せる以外に途なき旨を述べ玆に愈よ復活要求は事務的折衝の域から政治的解決へ一歩を踏み出す事となつたが、政治的解決の活動は廿七日に入つて全く本格化し高橋藏相を中心に大角海相、後藤農相等の會見が期待され、最終結末迄には齋藤首相の乘り出し斡旋も行はれる事とならうが政府側としては目下の處大藏省が飽迄自力による解決を切望してゐるのを尊重し、首相も待機の姿勢を執つてゐる財政當局と各省の互讓によつて之に首相の裁斷の形式を踏み解決を告げるものと期待されて居るが、然し之等の折衝を終る爲には廿七日一日では到底閣議に合はず從つて實質的解決を見ざる中は閣議に上程せざる方針であるから目下の處では廿八日の定例閣議には間に合はぬ模樣で廿九日或は卅日臨時閣議開催の運びとならう

各省と主計局 意見署々一致
海軍のみが態度頗る强硬

〔東京二十六日發國通〕大藏省主計局は二十五日は朝から各省會計課長を招き要求費に對する事務的折衝を續行したが海軍を除く他省は不滿乍ら略々諒解に達したが海軍省は軍務折衝全く停頓し二十六日中に主計局、海軍省の意見一致せねば大角海相は海軍部内の支持の下に强硬決意を有し成行重視さる

てゐる
一、海軍豫算は要求全部を認めねとするも豫算の全般より見れば十二分に希望に副ふてゐる
一、海軍が國防の安固を計らんとするに對し大藏側は財政の安固を計らんとする根本精神を一にするもので、その間に解決の途は發見される
一、農林初め各省豫算は財政上と國防關係で相當不滿あるが大局より容認せんとする
要するに各省と大藏間は圓滿な解決をなし得るものと觀てゐる

海軍豫算 最後的諒解運動を試みる

〔東京廿七日發國通〕豫算の復活要求に關し海軍では二十六日午後五時より霞ヶ關海相官邸に大角海相、藤田次官等參集、協議の結果國防の重責を負ふ海軍としては、飽くまで一億二千萬圓の要求を讓歩せず强硬に主張することに決定、二十七日午後より海軍首腦部總動員で關係筋を廻り最後の諒解運動を試みる筈で、大角海相の政治的交渉はその後となる模樣である

菱刈軍司令官 承德發新京へ

〔承德二十六日發國通〕菱刈關東軍司令官は二十六日朝ラマ寺、大佛寺を見物後午餐會に出で西部隊の閲兵を爲し午後一時發飛行機で新京に向つた

政府首腦部は樂觀

〔東京廿六日發國通〕明年度豫算の復活折衝は難關たる海軍對大藏の折衝が一兩中の高橋、大角兩相の會見により新たなる段階に入る譯であるが高橋藏相は財政の調和を主張し、大角海相は國防確立を强調して一歩も讓らず成行重視されてゐる、政府首腦は廿七日の豫算閣議後旬日を經過するも此の曙光見へず、齋藤首相はじめ側近者は焦慮の態であるが、右の如き理由から前途を樂觀し高橋藏相對各省間の政治的解決に望みを囑し

ショータン氏 後繼內閣組織に乘出す

〔パリ二十五日發國通〕サローン內閣辭職の後を承けルブラン大統領は後繼內閣の組織につき各黨[illegible]領袖の意見を徵した結果先づ[illegible]急進社會黨首領エリオ氏に白羽の矢を立てたがエリオ氏は健康の勝れざることを理由に組閣要請を拒否したので結局大統領は[illegible]急進社會黨領袖元首相ショータン氏に後繼內閣組織を要請し二十五日午後ショータン氏は新內閣の組織に乘出すこととなつた

福建の獨立で 北支政局に大動搖
各將領の動き注目さる

〔天津二十六日發國通〕福建獨立は北支に內面的に相當の「動搖」を與へつゝあり、何應欽氏は昨日于學忠、宋哲元、萬福麟氏等各將領の連署を求めて中央に對し陳銘樞氏以下の嚴罰を乞ふ旨の通電を發し于學忠氏また中央の命により獨立宣言通電の抑留方を各工會團體に、黨部の自由集會停止等を公安局に嚴命、極力動搖を防ぎつゝあるが、福建代表曹忠同氏は私かに東北各將領と會見、潜行的に諒解運動を續けて居る一方、陳銘樞氏は英租界に籌仕辦事處を設け、處長に尹士祺氏を、外交院に于家琛氏、財政院に宋彥廣氏を夫々任命活躍せしめつゝあり、西南派もイタリー租界の籌仕辦事處を中心に活躍、既に同處に對し胡漢民、鄒佛成兩氏から河北工作に對する密電ありたりとも傳へられ、河北省政府は右閉館を命令した、尚東北將領間にも相當動搖あり、何應欽氏は未拂ひ給料を中央に請求する等機嫌を取りつゝあるが、表面平穩の中にも「一本」のマッチの點火によつて忽ち爆發する危險性を多分に含んで居る情勢にある

福建、廣東兩派 風雲頗る急迫
正面衝突は時機の問題

〔上海二十六日發國通〕福建獨立に對し福建、廣東兩派の關係頗る急迫を告げ廣東の陳濟棠氏は省境一帶に兵力を集中警備を嚴にしてゐるが兩派の正面衝突は最早早避け難いものとされてゐる

經濟封鎖のため 十三隻の軍艦出動

〔南京廿五日發國通〕福建省の經濟封鎖に關する重大使命を帶び上海に向つた南京政府海軍部長陳紹寬氏は廿五日夜上海に到着するや直ちに第一艦隊司令陳季良氏と會見、重要會談を行つたが、同司令は直ちに第一艦隊全部を率ゐて福建に向ひ、福州厦門の封鎖を斷行する筈である、尚第一艦隊は最近日本より購入した巡洋艦寧海の外海容、海籌の兩巡洋艦其他合計十三隻の艦艇より成つてゐる

淸浦沿線の四個師に 蔣介石浙江省境移駐を命ず

〔上海廿七日發國通〕蔣介石氏は福建軍の北上に備へるため浙江省境を固めるに決し、既に津浦線沿線に駐屯の四個師約三萬は南下を開始した、一旦浦口に集結の上水路寧波又は溫州へ向はせるものと確聞する、尚中央の軍政當局は前記動員部隊の水路輸送用として招商局其他の支那汽船會社の汽船を徵發しつゝある

廣東は 獨立運動に參加しない

〔廣東廿五日發國通〕廣東軍政當局は福建問題につき獨立運動に贊成しないことは事實だが、挑戰せぬ限り武力に訴へる意思はないと言明した

新政府の將來は見透しつかぬ
福州を視察して來臺の 河相一等書記官語る

〔臺北二十六日發國通〕支那公使館一等書記官河相達夫氏は二十五日來臺したが福州の新政府獨立につき左の如く語つた

新政府の獨立は人民革命と稱してゐるが一般人民は殆ど我關せずの狀態である、舊省政府の看板や國民黨に關聯した三民主義のスローガンは抹殺されたが、それに代るべき新政府のスローガンは未だ見當らない、然しその宣言決議が示す如く共產黨と一抹の[illegible]があることは蔽ひ切ることが出來る胡漢民抱込みに默からず腐心してゐる樣だが胡氏自身としても國民黨打倒の手前躊躇してゐる樣だ、新政府の將來につき種々なる憶測が下されてゐるが自分の見て來た所では今後の見透しをつける迄には未だ組織が出來てゐない、隨つて南京政府が廣東政府に對し或種の行動に出る樣なことは不可能である程內部的事情が複雜であると共に新政府と廣東政府との區別も目下のところ明瞭でない

大詰に近づいた 日印會商の豫側

〔デリー廿六日發國通〕廿五日の澤田、ボーア私的會商は印度側が質問に名を借り、日本代表部の肚を最後的に確めに來たものと觀てよく、品種別割當量問題協議の爲各地の當業者をデリーに招請したのは
一、英本國の態度が決定しないので回答が遲延するのを取繕ふ爲の手段
一、今後の國內的紛糾を避ける目的で形式的に豫め當業者の諒解を得んとする意圖に出でたものと觀られる

これに依つて印度政廳は當業者に因果を含め何等かの保護手段を講ずることを代償として此の際政廳に於て考究しつゝある新代案承認を迫るものと觀測されてゐる、日印會商は目下の所早くて廿八日頃と觀らる

過般來印度が問題としてゐる
一、品種別の割當問題
一、品種別と二期制との關係
一、爲替問題
一、雜貨問題
の四點のみで此れに對し印度も可成重大視してゐるものゝ如く、殊にスツアート商務次官又二十五日ボーア代表自身が乘出し、日本の腹を探る等稀に見る愼重さである、實際印度政府としては英帝國ブロック結成の上からいつてランカシアの指金に依る品種別を來る譯にいかず、さりとて品種別を固持して會議を決裂させ印棉問題を未解決の儘に放置しおく譯にも行かず、又印度紡績の保護と云ふ事も考慮せねばならぬと云ふ矛盾した三つの立場に板挾みとなつて可成り苦しい立場にある事は充分諒解出來る、殊に二十五日澤田、ボーア代表の私的會見で日本側に非常な決心ありと云ふ澤田代表の堂々たる正論は印度側を更に窮地に立たせたもので、印度側は當業者と協議の上回答すると云つてゐるが果してどんな回答をするか現在の處會議決裂はまづあるまいが、若し印度側が我最後案を無條件で承認しなければ相當波瀾曲折あらう

會議の前途 尚波瀾を生ぜん

〔デリー二十六日發國通〕去る二十五日突如投げつけられた日本の決定的最後案により日印會商は俄然急轉化し、愈よ最後の段階に至つたが會議解決の鍵は唯今後の印度の出方一つに懸つて居り、二十八日開催豫定の會議を前にし印度

英印共同聲明に反對 兩國綿業者間の不統一暴露

〔デリー二十五日發國通〕日印會商大詰めに際し圖らずも英印綿業者間の不統一が暴露し、印度側は英印共同聲明に反對を表明した

日印會商の成行不明と先約定で 紡績操短据置論有力

〔大阪廿六日發國通〕紡聯午餐會は廿五日綿業俱樂部で開催二、三月の紡績操短率協議の結果日印會商の成行不明且二、三月の先約定も濟んで居り操短据置論有力であつた

東京實踐女學校の教員、生徒が新兵器獻納

〔東京二十六日發國通〕非常時日本に皇國女性の精神を反映すべく決意した下田歌子女史を校長とする東京の實踐高等女學校生徒二千二百名及び教員二百名は一萬二千二百圓を醵出し高射機關銃二門、聽音機一臺を購入、二十七日陸軍省に納付することとなつた

いよく あす商議總會

屆報議員改選、昭和七年度決算認定の新京商工會議所定期總會は、いよいよ廿八日午後三時から、八島通り滿洲土建協會新京支部樓上で開催されるが、議員は既報の二、三の新人があるのみでその他は殆ど現議員の再選となる模樣である

昭和八年度末入營 補充兵を教育
鄕軍新京聯合分會で

帝國在鄕軍人會新京聯合分會では昭和八年度補充兵教育のため室町小學校講堂で二十六日から一週間每日午後六時半から教習を開始した、教官は福本少尉、助教は大山曹長、上等兵二名を助手とす

二十六日 學科豫習教育の目的教練の目的術科徒手服裝檢查不動の姿勢右(左)向後向
二十七日 各兵科の性能及兵器の種類、執銃、擔銃、立銃、右(左)向、後向、銃及銃劍、裝劍準備
二十八日 簡單なる射擊學理、各個教練、捧銃、立射、標的準備
二十九日 射擊効力と戰場心理各個教練、射擊姿勢(一)膝射(二)立射
三十日 我國陸海軍の現狀及各國の兵力(英、米、露支)各個教練照準、並擊發撃抽出、學科は一部「プリント」したるものを配布する豫定
十二月一日 部隊教練の目的、關東軍の現狀、分隊教練整頓行進方向變換及隊形變換
二日 我帝國の使命と吾人の覺悟、分隊教練散開
三日 終了式

人事往來

▲加納大佐(第〇〇國參謀長) 廿六日午後四時來京二十七日午前八時三十分ハルビンへ
▲池田法務官(第〇〇團法務部長) 同上
塚本法務官(第〇〇團法務部長) 同上

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

品目	値
倫敦銀塊	一八片八分三
同 遠限	一八片一六分七
紐育銀塊	四三仙四分三
孟買銀塊	五六留比二分一
米英爲替	五弗一九仙〇〇〇
米日爲替	三〇弗七九仙
米支爲替	三三弗五〇仙
スチール株	四六弗〇〇
アナゴンダ株	一五弗〇〇〇

▲上海標金 (現物 / 十二月限 / 一月限 / 三月限 / 五月限 / 七月限 / 十月限) [illegible]
昨止 / 高値 / 安値 / 本寄 [illegible]

▲上海日本向 第一回 [illegible]
▲上海倫敦向 賣値 / 買値 [illegible]
▲上海紐育向 賣値 / 買値 [illegible]

▲大連金鈔票 現物 / 十二月二十七日限 / 十二月十二日限 寄付 / 步値 [illegible]

各地市場

▲大連上海向 引値 / 高値 / 安値 / 出高 [illegible]
▲大連臺台向 [illegible]
▲阪神日米爲替 第一回 [illegible]
▲大阪株式 大株 / 大新 / 鐘紡 / 同新 [illegible]
▲同短期 大新 / 鐘新 / 東新 [illegible]
▲大連株式 [illegible]
▲大阪三品 五品 當限 / 先限 [illegible]
▲大阪棉花 當限 / 十二月限 / 一月限 / 二月限 / 三月限 / 四月限 / 先限 [illegible]
▲大阪期米 當限 / 先限 [illegible]
▲仁川期米 當限 / 中限 / 先限 [illegible]
▲橫濱生糸 現物 / 當限 / 先限 [illegible]
▲神戶豆粕 十二月限 / 一月限 [illegible]
▲カルカッタ麻袋 青麻筋 / 筋 / 爲替 [illegible]
▲大連特產 ●豆粕 ●大豆 ●高粱 ●麻袋 [illegible]

新京市況

糧豆現物 特產大豆 / 高粱 / 小豆 / 包米 [illegible]
鈔票對金票 / 現大洋對金票 / 國幣對金票 / 現大洋對鈔票 [illegible]

高波〇團長搭乘の國際列車襲擊さる

北鐵西部線小蒿子附近で 我方死者二重傷一

廿六日午後十一時確實な筋に達した情報に依れば、廿六日午後九時ハルビン發高波將軍の搭乘せる國際列車が昂々溪驛手前の小蒿子驛附近を進行中突如數不明の匪賊が同列車を目がけて襲擊し、列車は顚覆し、乘組の航空兵〇〇名及高波〇團司令部々員は警乘兵と協力應戰し、目下激戰中である、此戰鬪により我方の損害、戰死二名、重傷一名を出したが急報に接した昂々溪驛より直に救援列車を出した

高波將軍 無事昂々溪着

當地に達した情報によれば廿六日夜匪賊の襲擊を受け安否を氣遣はれた高波將軍は無事昂々溪驛に到着した

西部線列車匪襲詳報

【ハルビン廿七日發國通至急報】廿六日午後三時廿五分ハルビンを發した滿洲里行第三次國際列車が同夜八時五十五分頃小蒿子と莉甸子の間を驀進中突如轟然たる一大音響と共に全車輛顚覆したかねて線路の犬釘を除き附近にあつて列車の顚覆を待ちかまへてゐた匪賊團は喊聲をあげて列車を襲擊したが、幸ひ同列車の後尾には日本軍が乘合せてゐたので直ちに匪賊に應戰した我方の損害戰死二、重輕傷六尚ほこの列車には高波部隊長の外國務院運輸山崎重次、前田重雄、岩間春一の諸氏及び札蘭屯、滿洲里間電話架設のため出張中の滿洲電信電話株式會社小林材料係長以下社員九名、現業員十七名、興安署總務科長坂水梧郎氏等其他邦人數十名の乘客あり、安否の程憂慮されてゐる

太平線の匪賊擊退に 守備隊長等戰死

賊は死体四十を殘し逃走

【昨報】四洮線太平川西方の匪賊襲擊救援のため急行した水戸中山部隊所屬鄭家屯守備隊は、途中多數の匪賊團と遭遇、應戰擊退これを急追中であるが、この戰鬪にて我軍は、隊長江本敏武大尉以下左の如く多數の死傷者を出した、尚匪團は屍体四十個を遺棄してゐる

▲戰死
守備隊長大尉　江本敏武
兵士
箱田一、宇波木鶴、秋山保小池治三郎、大崎六夫、古山正一、富岡敏、有輛、外職工一名

▲重傷
上等兵服部信治、小川三好竹井邦三郎、外七名

▲輕傷
石井一等兵

飼主の知れぬ犬は片端から捕殺すると

映畫技術講習

けふから大同自治會館で 警務司の新試み

學校教育にまた一般社會教育に映畫の利用がますます盛んになつて來たが、政部警務司保安科で映畫教育の理論と實際を知らしめるため二十七日から三日間大同自治會館で活動寫眞映寫技術講習會を開いてゐるが、受講者は新時代の教育に目覺めんとする人々、これを熱心をもつ熱心な人達を希望し授業は午前九時から正午までに終ることになつてゐる演題及び講師は左の通り

一、各國に於ける映畫教育運動と映畫政策の狀況
國際映畫新聞社長　市川彩氏

一、活動寫眞と文化論
關東軍參謀　小林少佐

一、映畫教育概論
映畫研究家　山内友一氏
堀熊二郎氏

一、映畫技術の實際
新田發聲映畫研究所　嶺賀清人

なほ實習として各種映畫映寫機及フキルム取扱方法その他について實地指導が行はれることになつてゐる

范家屯附屬地の 野犬を驅除

范家屯警察では十二月一日から十五日まで野犬驅逐を行ひ

世界移民を 視察の

一番瀨拓務書記官語る

移民調査の爲め歐米各國に出張を命ぜられた拓務省書記官一番瀨佳雄氏は一年半に亘る視察を終へ二十六日シベリヤ經由北鐵で來京一泊し二十六日午前六時半京圖線で歸朝の途に就いたが出發に先立ち同氏は語る

北米カナダ、アルゼンチン、ブラジル、歐洲各國の順で觀察したが各國とも日本が人口增殖に苦しみ海外に發展しなければやつて行けない國家だと言ふことを理解して來たのは一進歩だと思つた

南米サンパウロの邦人の發展振りは素晴しいものであつたがアマゾン方面は未だこれからだと言ふ感を深くした、滿洲の自衞移民の話は各國でも話題になつてゐたが初武裝移民と傳へられたので外國では侵略の一手段のやうに思ひ非難の聲を浴せたものだが滿洲の馬賊に對する自衞上止むを得ないのだと說明してからは

却つて同情を寄せるやうになつた、滯在中に圖書館で百年前のカナダ、濠洲の移民記錄を讀んだが當時の移民に對する輿論は極めて冷淡で引揚げが叫ばれてゐたが然し英人の不斷の努力が五十年目に漸く效果らしきものを認むるに至り、今日の大殖民地の素地を築いたこれを思へば滿洲の移民は赤子であつて未だ兎や角批判すべき時代でないと思ふ要するに茲十年が試練時代であり之に堪へ得るや否やが懸つて邦人移民の將來をトするものと思ふ

汽車食堂で

新店名懸賞募集

勉強する食堂として好評の汽車食堂は今度大擴張をし現當業所より東方二丁の東二條通新築店舗に移轉し階上は大小宴會場とし階下を純食堂として一層勉强する筈である、數日內の移轉を機に最も大衆的食堂としての店名を一般より懸賞募集し決定を待ち華々しく命名開業の筈である、投票は官製葉書で東二條通五八汽車食堂宛〆切は十一月三日賞金一等十圓以下二、三等迄あり振つて投稿願ひたいと

街の日記

皇軍慰問旅行の 五女性歸る

新京聯合婦人會の赤木常磐女史濱田岩坂二夫人は先に新京兵士ホームを代表して東部滿洲を除く各地に在る皇軍を慰問し絕大の感謝を受けその使命を果したが更に去る二十二日奉天の兵隊婆さんこと樋本女史外一名が加はり五名連れで吉林敦化局子街等に赴き前回同樣慰問品を贈り慰安會を催すなどして僻地に在る皇軍將士を見舞ひ二十六日午後四時二十分着列車で歸京した

日蓮宗經王寺の 稻荷遷座祭

市內曙町日蓮宗經王寺境內のお稻荷さんは二十八日夜から二十九日へかけて新祠への遷座祭を行ひ新築落成のお祝ひは來春初午あたりに盛大に擧行することになつた

花柳流舞踊 天才少女來る

滿鐵社員會婦人部主催で花柳流舞踊家屋上房子孃の舞踊會を來る二十九日午後七時から西廣場小學校內で開催するが屋上孃は年齡僅かに十一歲、恐るべき天才舞踊家として將來を期待されてゐる人である會費十錢

小室畫伯 近く個人展

帝展に殆ど每回入選中の東京小室孝雄氏は滿洲風物の寫生を目的に來京目下羽衣町三丁目二番地の二號小室方にあつて執政府小學諸初め滿洲國要人の肖像畫の執筆中であるが近く風景、靜物、肖像の個人展を催す豫定である

落しもの

▲吉林稅務監督處監督富岡博氏は二十六日午前一時二十分ごろ日本橋通モデルンよ

り大使館々舍に行く途中現金百圓を落した

▲咲町三丁目二十二番地山地誠士氏は二十六日午後三時二十五分新京驛內で黑色人造革製トランク一個を置き忘れた

▲吉野町二丁目十四番地三喚屋赤塚幸一氏は二十六日午後九時ごろ通帳一冊を吉野麻雀クラブから歸宅中落した

盜難屆

▲梅ヶ枝町二丁目六番地暖房業王長貴氏方へ二十六日午後五時ごろ何者か侵入し黑色オーバー一着時價三十圓外衣類五點百圓を窃取された

初心者には 滑り方の手引

スケート部幹事會

西公園のスケートリンクもいよいよ來る一日から一般に開放されることになつたが同リンクでは一般初心者のために新京體育聯盟並に滿鐵運動會から各委員が交代で出張して指導に當ることとなり、その方法その他に關して二十七日午後一時からスケート部幹事會を地方事務所內で開きいろいろ打合せするところあつたなほリンク使用上の注意をあげると左の通りで必ず嚴守されたいと

御注意

一、入場の際は係員に入場券を示されたし

一、所定の仕度所にて靴用し土足のまま入場することを嚴禁す

一、場內に於ては係員の指揮に從はれたし

一、左記に示すこと最も危險につきお互に相戒め嚴に之を犯さず常に氷面は鏡の如くなる樣に注意されたし

イ、土足のまま入場せざること

ロ、小石、土、布片、紙片、煙草の吸殼を場內に投げ棄てざること

ハ、鬼ごつこ又は走路に立ち入らざること

ニ、指定以外の場所にて滑らざること

一、貴重品はお互に注意し係員に預けられたし

宙にまよつた

百圓札十枚の行方? 中村警務指導官の

公金納入問題に異變

吉林省珠河縣烏吉密河警務指導官中村政道氏が域內北門外有道公司に警察官制服代價三千圓を支拂ふべく二十五日午後三時ハルビンから一來京一し中央通松屋旅館に投宿し二十六日午後七時ごろ前記有道公司を訪れ高田義三氏に會見し洋服代價三千圓內國幣百圓廿八枚同十圓十七枚哈大洋二十七圓を封筒に入れ高田に手渡し同家を立去つたが中村氏が歸宅後會計係が調べてみると國幣百圓券十枚が不足してゐるため驚き直に中村氏に不足の旨を告げたが、何時の間に千圓が紛失したか不審を抱き新京總領事館署に屆出た、同署では俄然緊張し刑事隊を各方面に派し一千圓の行方につき嚴重調査をなしてゐるが果して中村氏が手交した際一千圓が確にあつたか否かが一疑問一とされてゐるが、同署の調査の結果二十五日午後三時來京した中村氏が大切な公金を所持しながら料亭泰東に投宿してゐる點が疑はれてゐる

集金橫領犯人 逮捕さる

愛媛縣生れ市內日本橋通双葉洋行こと女屋義夫氏方電氣工奥山道一(二七)は同家集金百八十圓を橫領し去る二十三日午後九時ごろ行方を晦したが二十六日午後七時ごろ長春座で映畫見物中を新京署池田刑事部長に發見逮捕された、取調べの結果犯人は東三條通カフエー人形座女給岩崎シユ子に馴染を重ね、開業後每夜の如くに同カフエーに足を踏み入れ消費したものと判明した

鐵道の田中 福田兩氏 鐵路總局へ

鐵路總局では今回內部の充實

諸者から

投書歡迎

放送局からの答

「新京放送局への要望」と題されました本欄の御苦言に對し一言御詫を申上ます

一、當放送局は波長を最も混信の無い所に選びましたので開局後內地受信が困難になつたと云ふ申出は殆どありませんでしたが二三申出のあつた件に就ては夫々局員が出向いて混信の無い樣に調節して居りますから今尙御困りの方がありましたら直接御一報願ひます

二、晝間の內地中繼に就ては御高說御尤で先般野球中繼を行ひ大變好評を得ましたので今後も出來る丈け頻繁に行ひ度いと思ひます、然し御說の通り晝間の放送局の電波は新京では殆ど受信出來ないので晝間の中繼を行ふ爲には遞信省險見川送信所及當地の機器の一部を借用しなければならないのでありますそれで只今の所每日中繼する譯には參りませんが社も次第に諸般の設備を整つて行つて居りますから聽取料を頂戴する時分には晝間の中繼も自由にやれる樣になることと思ひます、次にアナウンサーも先日五百余人の大學專門學校出の希望者中から採用した若手が一通りの訓練を濟まして來月あたり配屬されることになつて居りますから何卒樂しみに御待ち下さい

花街の噂

をはかり職制を決定するため滿鐵側から一流人物を引き拔くことになつた、選拔される主なる人々の內新京鐵道事務所から營業長田中朱治、車務長福田又司兩氏が決定した

千鳥の文龍

この寫眞は橫を向いて居りますのでちよつとわかりにくいのみならず、何か思索にふけつてゐるやうにみへませうがなんです、それに一杯二杯と盃を重ね、双頰やや紅潮するとなほさら朗かになります、雄辯にもなります

×

彼女の帶留の金具、イヤ金具ではないが、その金具のあるべきところに牙彫のハンニヤの面、それがなかなかよく彫つてある、口は耳まで裂け、眦に吊り瞋恚の形相を物凄く現はしてゐる、すばらしいなアこりやア君の心を現はしてゐるのかねと憎まれ口を叩いたところが

×

あらさうぢやないのよ、外面如菩薩內心何とかむづかしいことがあるでせう、その反に內心如菩薩なんですワと反駁する、でも君がかんしやくを起したらひどいだらうねと陣容を替へて迫ると、あらどうして?だつて相にあらはれてる、てなことからそれは彼女も肯定し

×

つい二三日前にかんしやく玉を炸裂させ、あたり近所を震撼させた一條を語つたが、その內容は、かれこれ規定の行數に達し余白が無いのでお預りとします、これ千鳥の文龍姐ちやんであります

新刊紹介

△滿洲公論(十一月號)發賣言 資本家大に入るべし、資本主義的体系化の將來高塚、五一五事件の若き人々に六花老人 滿洲國家統制に就て荒川、五一五被告精神眞解運動の提唱瀨原、五相會議の首途晴膽錄水、シムラ會商何處へ行くその他一部金五十錢、發行所大連紀伊町其社

△奉天商工月報(十一月號)主要記事動く奉天の經濟事情、奉天に於ける食料品罐詰、外國爲替管理法、滿洲國銀行法滿鐵の改組は當然の歸結、何故輸入品が增大する、滿洲金銀統計詳細、奉天工業明貸付規則、奉天に於ける茶、奉天工業地の企業の狀態、一部金五十錢、奉天加茂町奉天商工會議所

△興安北分省三河地方及拉林の概況、滿洲國興安總署調査科調査資料第一輯、非賣品

ラヂオ

二十八日(火曜日) 新京

午後五時〇分 子供の時間 子供の新譜レコード
同 五時三〇分 ニユース (英語)
同 五時四〇分 ニユース (露語)
同 五時五〇分 ニユース (鮮語)
同 六時〇分 ニユース (東京より)
同 六時二〇分 語學講座 (滿語) 講師 高宮盛逸
同 六時四〇分 語學講座 (日語) 講師 植松金枝
同 七時〇分 演藝 (滿語)
同 七時三〇分 講演 (滿語)
同 八時〇分 ニユース氣象豫報番組豫告 (滿語)
同 八時三〇分 時報 (東京より)
同 八時三一分 ニユース (東京より)
同 八時四五分 ニユース氣象豫報
同 九時〇分 講演 (奉天より) 醫學博士 阿部淺吉 主婦に必要なる營養智識
同 新譜レコード紹介 (新京より)

△プログラム豫告
電話にて御用の折は
一、局長及放送事務に關するものは 三七二〇
一、演奏に關しては 四六一六
一、放送所 四六九四

けふの銀相場

鈔票對金票	一二三八〇
現大洋對金票	一〇五四七〇
國幣對金票	一〇九四八〇
現大洋對鈔票	九六四二五

慶安異聞 艶魔地獄

（舞臺上演 映畫化）

玉水三郎

（繪）長谷川小信

（百三）

唐犬の一考（二）

水野十郎左衛門は、井倉源太左衛門を叱り附ける如く言つた。

『何も予は深見重左衛門の鐵の棒を恐るゝではないが、物の道理には屈服せねばならぬ。何も予が青山の味方でありながら、謀叛人餘類の肩を持つのではないが、此度の一件だけは青山が惡い、マア默つて成行を見て居れと言へ。定めし青山が予を迎へて來いと申附けたであらうが、此一件なら予は行かぬ』

鰾もホロゝに水野十郎左衛門、斷つて了つた。

用人尻尾を卷いて歸り、此由を青山主膳に告げると、烈火の如く嗔つた主膳。

『ナニ水野十郎左衛門までが、左樣な事を申すか……、可しツ、此上は白柄組始め、旗本八萬騎を敵としても戰ふであらう。最早青山主膳一身の外味方なし。破れかぶれに相成つた』

源太左衛門驚いて、

『御前、左樣な無謀の仰せでは困ります。水野樣が何と仰せられましても、まだ〳〵御當家御親類方や御前にお味方申す旗本衆は、多數ございます。先づお心をお鎭めあつて、他に何ぞ考へを願ひます』

『イヤ百計盡きた』

源太左衛門は暫らく考へてゐたが、ハタと膝を打つた。

『御前樣、手前うつかり致して居りました。畢竟此度の一件は、唐犬權兵衛が如何に頑張りましても、高が町奴にございます。唯々後見に久米の平内、深見重左衛門の兩氏がある事とて、權兵衛が勝手な振舞を致し、御當家用人堀川忠太夫殿を殺害致したりしたのでございます。ソコで此兩氏を唐犬の方より、離れさす反間苦肉の策を行ひますれば、忠太夫殿無念晴らしともなり、御前樣のお氣も濟む事と存じまする』

『フーム、其方左樣な反間苦肉の策略があると申すか』

『さればでございます。久米の平内は多く旗本の子弟を門人として今日道場の隆盛を見てゐるのでございます』

『フム左樣ぢや』

『ソコで御前から、旗本衆の內で平內門下となるものゝ子弟あるお方へ、平內の曲事を申し送つて、道場を一日にして、寂れさすといふ策にございます』

『フム、して其方は……』

『町奴は總ての旗本に刄向ひ、大名の人入れ稼業をなすもの。亡くなりました幡隨院長兵衛でも判つて居ります』

『フム左樣ぢや』

『其町奴の尻押しゝて、謀叛人の後見となり、旗本衆の敵同然となる久米の平內へ、其子弟が入門するとは心得ぬ……と斯ういふ趣意で、御前から書面なり、口上なりで使者をお出しになれば、忽ちにして平內方門弟は、旗本衆のみでなく、總てが氣分を惡くし、道場は寂れるものと存じます』

『いかさま妙計』

『それには深見重左衛門殿は手前先般奧州から上府の折、松平出羽守お邸にて或者の引合せに依り、對面致した事がございます、浪人の客分といふ妙な身分の御仁』

『それは好都合』

『あの御仁は酒が大好き、手前酒で釣してお目にかけます』

十一月廿八日　舊十月十一日　火曜　戊戌　友引　閉　室宿

- ●一白の人　毀譽褒貶を氣に懸けず貞實に職分を勵み和　丙と庚と癸が吉
- ●二黒の人　業務振はざる樣なれど勉むれば發展すべし　乙と戊と寅が吉
- ●三碧の人　惡刺なる手段に陷りて再興容易ならざる日　庚と壬と癸が吉
- ●四綠の人　職責を重んじて忠實なれば不幸も遠ざかる　丙と庚と壬が吉
- ●五黄の人　粗暴の計畫を立てず舊業を守れば咎を免る　卯と戊と亥が吉
- ●六白の人　運勢佳良にして輕進さへ愼めば繁榮すべし　未と庚と寅が吉
- ●七赤の人　見込違ひにて後日に悔ゆる事あり新計畫凶　酉と辛と寅が吉
- ●八白の人　不祥の事は無けれど心落付かざる注意の日　甲と戊と丑が吉
- ●九紫の人　氣運一轉して新生面を開くに好適の日なり　丁と癸と寅が吉

大阪商船出帆

門司、神戸（大阪）行
×三等船客設備船（午前十時大連出帆）

船名	出帆日
うすりい丸	十一月廿九日
ばいかる丸	十二月一日
×しあとる丸	十二月二日
亞米利加丸	十二月三日
うらる丸	十二月四日
はるぴん丸	十二月六日
×たこま丸	十二月七日
香港丸	十二月八日

●切符發賣所　滿鐵沿線主要各驛及各地ジャパンツーリストビューロー案內所
●船車連絡切符（往復切符ハ汽車二割引、汽船一割引、通用期間二ケ月）
大連、門司、神戸間乘船切符（往復切符ハ復路運賃一割引通用期間三ケ月）
●專屬荷扱所　各地國際運輸會社支店
大阪商船株式會社　大連支店　電話四一三七番
奉天出張所電話四〇八九番　新京出張所電話二三二六